

第2次那須塩原市総合計画 第1回 審議会

開催年月日：令和3(2021)年4月15日(木)

開催時間：10時00分～11時45分

開催場所：那須塩原市役所本庁舎303会議室

委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	飯島 恵子	○	13	平井 正美	○
2	市村 典子	○	14	平山 博	○
3	臼居 芳美	○	15	深澤 桂一	○
4	大島 賢一	○	16	藤田 英之	○
5	大島 三千三	○	17	三浦 真紀	○
6	岡田 誠司	○	18	三田 妃路佳	○
7	岡田 陽介	○	19	室越 礼一	○
8	齋藤 優	○	20	山口 佳子	○
9	佐藤 幹雄	○	21	山崎 和義	○
10	田中 志	○	22	山島 哲夫	○
11	田村 ひろみ	○	23	渡辺 将基	
12	橋本 秀晴	○			

1 開会

2 市長あいさつ

3 委嘱状交付

市長より審議会委員に委嘱状を交付。

4 会長、副会長の選出

名簿 22 番・山島委員を会長、名簿9番・佐藤委員を副会長として選出。

5 諮問

市長から山島会長に対して諮問。

(市長、所用により退席)

6 議事

(1)第2次那須塩原市総合計画基本構想及び前期基本計画の1年延長について

(資料5について事務局説明)

【会長】

ありがとうございました。1年間延長するということですが、ご意見ご質問がありましたら発言いただきたいと思います。

【委員】

コロナの感染拡大がまだ収束していないが、1年の延長で計画が達成できる見込みがあるのか、もう少しご説明いただければと思います。

【事務局】

昨年度においては、コロナの流行が始まり、年度当初に全庁的に事業の中止を行ったため、事業の進捗が図れないということで計画の延長について検討したところですが、今年度はワクチン接種が進むことなどが考えられることから、市の事業についても実施可能なものから進めていく予定としております。そのため、現行計画を1年延長して、新たな計画を2年間かけてつくっていきたいと考えているところです。

【委員】

そういうことだと、昨年度と違って今年度は事業を実行していくということで理解してよろしいでしょうか。

【事務局】

様々な対策等を行い、今後の感染状況を鑑みながら進めていければと考えております。

【委員】

計画を1年延長する理由として「施策の進捗が図れない可能性がある」と書いてありますが、実際、施策の進捗自体がどうなっているのか、KPIも含めてどうなっているのかという説明がないと、なかなかこの理由に対して判断が難しい。例えば、「現在進捗が 80 で、後1年あればこうなります」という見込みがあれば理由になると思います。一方で、コロナの状況など変化があったので、計画を立て直すためには1年間様子を見る必要がある、そのために1年延長するという理由もあるかと思います。どちらかというと、そちらの理由の方で延長するのかなという推察をしているところです。すべての KPI の実施状況等を提示するのは、大変な作業になってしまい、現実的に難しいかと思いますが、主要なKPIについて進捗を説明したうえで、達成可能かどうかを言及する、というのがセオリーではないかと思います。

【会長】

例えば、前期計画は当初の計画期間通り今年で切って進捗がこれだけでした、その上で後期計画というやり方も有り得るわけですが、ここでは前期でやろうと思っていたところの幾つかができていないので、これから前期の間にやるべきものはある程度やれると、前期計画の中でコロナの影響によりできないかもしれないけれど、今年1年延長しないとなかなかうまく区切りがつかないという風に捉えていますかどうか。

【事務局】

会長のおっしゃるとおりです。市においても KPI の進捗状況や KPI 自体を変更するという議論もありました。ただ、令和2年度においては、全面的に事業を中止し新型コロナウイルスの対応を行ったので、令和2年度に行う予定であった部分をスライドして今年度実施が可能な部分から実施していきたいと考えております。結果として、コロナの影響などにより前期基本計画を検証する中で達成するものできないものがあるかと思いますが、できなかったものについては後期計画に反映させていきたいと考えています。

【委員】

1年延長に反対しているわけではないが、現在の進捗状況を踏まえないで計画改定を考えていくことがプロセスとしてどうかということです。

【会長】

おっしゃる通りだと思いますが、後1年にするか、2年にするかというところで、昨年度は色々な事がほとんどできなかったが、KPIを出すにしてもまとまりがつかないという状況ではないかと思います。コロナで大変な事態ではあるが、少しずつ対応しながらやっていって、ある程度形をつけて、次の後期計画ということを考えていくということではないかと思います。説明の仕方については、いただいたご意見を踏まえて、市の方でも少し工夫をして欲しいと思います。また、1年延長すること自体につい

て、他にご意見があればいただきたいと思いますが、どうでしょうか。

【委員】

ありません。

【会長】

今後の議論の前提になるかと思っておりますのでお諮りしたいが、議題1及び諮問事項1の「第2次那須塩原市総合計画基本構想及び前期基本計画の1年延長について」は、即日答申で「異議なし」ということで答申してよろしいでしょうか。

【委員】

異議なし。

【会長】

それでは、1年延長については、「異議なし」として答申したいと思えます。

(2)第2次那須塩原市総合計画後期基本計画の策定方針について

(資料6について事務局説明)

【会長】

今の説明について質問があればお願いしたいと思います。

【委員】

確認ですが、基本構想も見直し対象になっているのでしょうか。

【会長】

基本構想は10年で、今回1年延長して11年になりますが、後期基本計画策定の前提となっているので、基本構想自体の変更はないということだと思えます。

【事務局】

基本的には、会長からご説明があったとおり、基本構想が総合計画の大元となるので変更は予定していませんが、基本構想の中にある「人口ビジョン」については、現人口が目標人口を下回っている状況なので、この部分の数字については、再度人口推計を行った上で、議論の中で見直しをしたいと考えています。

【会長】

諮問書の2番目に「人口ビジョンについて」の記述がありますが、基本構想を踏まえて後期計画を策定していくこととなり、人口ビジョンについては今回見直すということになります。

【委員】

参考までに申し上げるが、コロナの影響があつて後期計画の策定期間を伸ばすなどの影響が出ていると思います。コロナの影響によって社会情勢の変化が生じている。基本構想も同じでいいのかどうかというレビューはしておいたほうがいいのではないかと思います。

【会長】

向かっていく方向は基本構想が前提となり、具体的な部分など施策で対応していくところもあるかと思いますが、そういう点も検証をしていく必要はあるかと思いますが。

【会長】

策定方針自体は、役所の文章で何を言っているかよく分からないと思います。

今日は第1回目の会議で、様々なお立場の方がおりますので、後期計画では那須塩原市においてはこういうことを考えるべきだ、こういうことに重点を置くべきだということを発言いただければ。

【委員】

地域で様々な活動をしてきましたが、行政と市民の気持ちがあうまう繋がっていかないと、物事がなかなか思うようにうまくいかない、せつかくのエネルギーが無駄になってしまうんだなということも経験しましたし、那須塩原市は地域にもったいないくらい資源があり、特に市民の皆さんの意識は、開拓のまちということもあって、やろうとするエネルギーのもの凄いことは地域活動の中で体験してきました。このまちで誰もが安心して暮らせるまちになったらいいなと思っています。総合計画は、計画書が厚く、色々なことが書かれていますが、形になったという実感がまだありません。市民に実感してもらえそうな計画になればいいと思います。また、計画書にあるように、これだけの動きがあるのを市民にいかにかわりやすく伝えて、活かしていただくことが大事だと思っています。

【会長】

現総合計画は厚くて見ている人が少ないということでした。市民向けの概要版などを作るときは読みやすくということが重要視されますが、この冊子は市の施策で色々なことをやる時に、何をどうやるか、きちんと書いていないと使えない。どういう施策がどう関連するかということで、必要な人が読まなければいけないものなので、総合計画自体を概要版のようにしてしまうと使えなくなってしまう。概要版は必ず作るので、概要版を市長がいろいろな分かりやすいものにするというのが本来なのかなと思います。

【委員】

昨日初めてHPで見せていただいて、こういう計画があつたんだなと初めて分かったところです。

福祉分野になりますが、ボランティアセンターや地域住民の助け合いに関する目標値を見ると、助け合いに関しては、目標値を大きく上回っていました。その他、計画にはたくさんの目標値が掲げられていますが、これらを全て計画どおりに達成していくのは大変だなというところはあります。

【委員】

皆さん御存知のとおり那須塩原市は生乳生産本州一なので、そういうことを魅力として取り上げて、若い人が酪農を継ぐとか、お嫁さんをもって家族を増やすとか、あと、今、ワーケーションという言葉がありますけれども、新幹線が通っていて交通の不足もないと、なによりも自然環境が整っているということを掲げて人口を増やすことも可能だと思います。こうした魅力的なことをもう少し上手に発信していけたら、食の観点から言えば、食を通して、生乳生産本州一、牛乳生産も高い、チーズも作っている、バターを作っているということを魅力として発信できるといいなと常々思っていて、それが引いては魅力のあるまち、人口増につながっていくといいなという構想を練っております。

【会長】

那須塩原市が生乳生産本州一というのは、16年前の審議会のときには知らない人が多かった。

【委員】

こういうロゴも全部牛マークなのですが、単なる酪農家が多いだけでなく、生乳というふうにもう少しPRしていったらいいかなと思っています。

【会長】

生乳の話もそうですが、全部出しちゃうんですよね。ブランドとして出していないというのもあって、チーズはブランドとして作っている、これは市長もかなり考えているところです。那須のブランドをつくっていくというのが大事だと思っています。那須塩原駅周辺まちづくりビジョンや歴史文化基本構想でも色んな魅力を出していますので、それをどう上手くPRしていくかということですね。わかりやすいものを作ってPRしていくことが大事だと思います。

【副会長】

市もチーズフォンデュを那須塩原の名物にしようという取組はしていますが、なかなか多くのレストランなどに浸透していない状況です。もう少し努力しなくてはと思っています。

【会長】

那須塩原駅前にそういうものをつくろうかという話もありますが、ブランドとして出すことが重要だと思います。

【委員】

環境分野になりますが、最近、エネルギーの問題などで太陽光発電の開発が進んでいます。市内でも、たくさんの大規模な太陽光発電の設備をつくるのに、相当伐採をしています。百村とか青木でも相当大規模なものが作られています。基本構想の中に環境保全に関わる施策がたくさん書いてあり、今後CO2を出さないというエネルギー施策がある中で、市内でもたくさん太陽光発電の設備が出来ているんですね。これがさらに進むのではないかと考えていまして、今後、こころへんをどうコントロールできるか、できるかどうかわかりませんが、そういうものも含めて考えていかないとはいけません。

【会長】

環境については、カーボンフリーにしていくということで、2050年にCO₂の排出を実質ゼロにするということが掲げられていて、県の環境基本計画でもそれを踏まえた気候変動適応計画を今年の3月に作ったんですが、そこではまだ2030年に26%しか出してない、その中でも議論があって、これからカーボンフリーに向けてどうしていくかというのが重要。

【委員】

自然環境を保護するということと、CO₂を出さないということの折り合いをどうつけていくのか、ということも含めて考えていかなければならない。

【会長】

県の環境アセスの簡易アセスでは、太陽光が国の基準で50ヘクタール以上のものについてはアセスかけるということになっていて、県の方では、森林を伐採する場合には、一定の規模の伐採をする場合には、自然環境の保全についても協定を結ぶようにしています。そういう形で、色んな対応はしていますけれども、太陽光をやって、その結果森林を伐採していくことは逆効果ということもありますし、どうするかなかなか難しいところもありますが、この中にどう書いていくかというのは重要なところで

【委員】

人口動態について言及があったと思いますけれども、新型コロナウイルスの影響についてはミクロ的にはネガティブなことが多いですが、那須塩原市にとってはポジティブな状況なのかなと思っています。どういうペルソナ像というか、どういう人に来て欲しいのか、基本的には新しく生まれるか来てもらうかしか人口動態をいじるパラメーターはないのかなと思いますので、どこの部分のセグメントの人口動態像に対して、どういう予算を投下するのかというところの話に密に詰めていきながら、そこに対して適切な施策を検討できればと思っています。

その中で、フックになっていくのが、観光資源とか名物みたいなところかなと思っているんですけど、このあたりは非常にいいものを持たれている一方で、私自身、那須塩原市が生乳生産本州一であるということも知らなかったりもしてますし、チーズで世界的に有名なものがあるということも存知しなかったんですね。そういった中で、今って、名物を名物だというよりも、BtoCとかですぐクラウドファンディングみたいなものを活用したプロセスがほとんどで、またそちらの方に人が流れていくというのはどうみてもその通りだと思いますので、モノではなくてストーリーを売るというかなり具体的な論点を差し込みに行くのが一番いいのかなと思っています。国の施策でも、フワフワとしたものがすごく多くて、実はだいたい実行されずに、なんとなく決まったみたいな感じになるんですけども、そのあたり具体的な施策に落として、しっかりストーリーまでやれると一番いいかなと思っています。

【委員】

市の情報発信の方法というところで、もっと外に外にというところを重点的にやっていった方がいいんじゃないかなと思っています。あと、育児をしてみて、ママにとってもうちよつとあったほうがいいのかというところなど気づいたところが多かったので、そういったママ視点での考え方を発言していけたらと

思っています。

【委員】

コロナの影響で観光がストップしてしまっていて、本来ならば、今までこういったものの中でインバウンドですとか、色々あると思うんですけども、そのインバウンドですら受け入れることができない。唯一できるものは、ワーケーション。首都圏の方々が塩原温泉や板室温泉に来ていただいています。ですが、まだまだ環境整備が整っていない部分があります。塩原温泉は、先日市の協力によってインターネット環境が素晴らしく良くなりました。おかげで、首都圏の方も増えたと思います。このコロナ禍で、やっぱり環境整備など資源整備が整っていない部分があるので、今観光客がいない間に整備をしていただけたらありがたいなと思って、これは強く希望いたしました。コロナの影響で、本来ならば雇用がもの凄く難しく、人手不足だったところがありますが、今人手不足ではありません。ですが、塩原温泉は、ものすごく人口が減ってしまっていて、小中学校も1人入学とか、そんな程度の状態になっております。シングルマザーを首都圏から受け入れてということも常々申しておりますが、そこでも住むところのネックがありまして、増えるような状態には至っていません。でも発信することによって、それもひそかに増えればと期待しているんですが、そういうことも織り交ぜてやっていただければと思います。

【委員】

基本施策の3-5男女共同参画を実現するというのが、この冊子の76ページに書かれています。「目指すまちの姿」に「男女が対等な立場であらゆる分野の活動に参画できるまちになっています」と断定的に書かれていますけれども、現在色んな活動をしておりますが、平成が終わって令和になっているにも関わらず、「女のくせに」などの発言が問題となるなど男女共同参画に関して考えていただける機会が増えている一方で、まだまだ活動のしづらさを感じています。女性防火クラブという組織があるんですけど、家から火事を出さないという理念のもと各家庭の奥さんが集まって組織していますが、周囲から「町内会でやることなので言われたことだけやればいい」という目線で言われてしまったりして、色々活動しようとしている若い人たちがいるにも関わらず、そういう発言をされてしまうと、もういいかなって活動をやめてしまう人がたくさんいるんですね。そういう人たちがいるということを発信していきたい、発言し続けようと思っています。

【委員】

市の総合計画について、3つ程お話をさせていただきます。まず、基本施策で重要に思っているのは「安全・安心」というカテゴリーですけれども、那須塩原市は比較的災害が少ないということで市民の皆様がそういうふうには思っています。自治会で防災訓練をやっても人が集まらない、市は災害がないんだという風潮があります。既存の総合計画の中で「備えを強化する」ということですけれども、ハード面とソフト面、両方あるんじゃないかと思いますが、ハード面に投下しても金がいくらあっても足りない。私が常々思っているのは、減災、なるべく災害を少なくすること。地域で防災・減災を考える、そのような仕組み作りを総合計画の中に盛り込んでいく必要があることが1つ。それと、コロナ禍において、特に高齢者が閉じこもりがちになりました。自治会活動がコロナでほとんどできないという状況があったので、それも踏まえて、地域包括支援システムが、大幅に止まっているという感覚があります。このシステムから共生社会の実現というところに範囲を広げておりますけれども、後期計画において

は、これを作り上げていきたいと考えております。もう1つが、地域力、ここに市民協働による地域づくりという命題がありますが、私が思うには、地域というのは住民が作るものなんですね。課題をお互い共有しあって、それぞれが知恵を出し合って進めていくべきだと思っています。最後に、持続可能なまちづくりについてですが、市では気候変動対策局を立ち上げていますが、SDGsが金太郎飴にならないように、市ならではの特色のあるプランを作り上げていきたいと思っています。

【委員】

農業が抱えている大きな課題としまして、大きく言えば担い手不足、農業者の高齢化が大きな問題点になります。今後それらを総合計画の中で様々なことを提案しながら全部とは言いませんが、それらが解決できればということを考えていますし、最終的には農家の所得を1円でも多く増やせることを形として表せたらいいなと思っています。それと、先程、各委員から話がありましたとおり、那須塩原市には生乳であったり、肉牛など色々と魅力もあるので、それらを市外に発信していければよいのではないかと考えています。

【委員】

全体的にいうと、企画・ビジョンの進捗状況というところで、黒磯駅前にもくる・みるができましたし、商工業・観光業・飲食業など色んな面で我々は市の計画に基づいて支援・協力していただいております。アフターコロナということで、コロナが存在しなくなる時がくると思います。そのためにも、計画策定に向けては、これから大変重要な時期に来ていていると思っております。恵まれた那須塩原市ですので、第2次那須塩原市総合計画の目的達成ができるように、今後ともみなさまと頑張っていきたい。環境がいいところですので、企業誘致とかそういうものを積極的に関わって行っていただきたいと考えています。今、産業団地を造成していますから、そういうところにも積極的に市としても誘致していけば、街がもっと活気づくのではないかと考えております。

【委員】

策定方針資料6の中で引っかかった言葉というか、「持続可能な」という点については、私自身も那須塩原市の強みとか良さをしっかり理解しなければいけないなと、これをどのように発信したらいいか、みんなに広めたりということが大事なのかなと考えているところです。あと、市の将来像で「人がつながり」という言葉があったんですが、教育で人づくり、人格形成の部分ですが、教育現場から言うと今年度からギガスクール構想が始まりまして、1人1台のパソコンをもって勉強するということになるんですね。行く行くは授業を受けるにあたって AI 的なものを持ちながら授業を受けるような方向になっていくのかなというイメージがあるんですけども、一方で、教育現場としては、不登校が増えたり、人とのつながりが苦手な子が増えたりという現状があるんですね。市の将来像の中に、「人がつながり」という点についてもすごく引っかかったところがあり、やっぱり人との関わりが苦手な子に対しての支援が必要かなという部分があるんですね。市民全体としていくと、市民の協働性が発揮できるようなものをもっとでてくればなど、本当に広い意味でのそんな思いがあります。

【委員】

P61に「消防団を充実・強化する」とありますが、この中で目標設定がありまして、平成 26 年のとき

には団員の充足率が90%、平成33年が92%になっていますが、実際はもっと低いです。那須塩原市消防団の定員が1,430人だったと思いますが、昨年の定員が1,200人に減っていて、今年も減っています。防災・減災をやっていかなければなりません、一昨年の台風19号、この時は市内で冠水・浸水があり、消防団が夜中出まして、土嚢を積んだり、配ったりなどしています。この数字からいくと、消防団は高齢化していて、団員は60歳を過ぎてホースを担いで走っています。団員をどうやって確保するかが一番の課題になっています。現在市の方と消防署で、今年度、団員をどうしようかということで課題として挙げています。一番は定員の見直しと部の統合です。末端が第3分団第何部となっており、ここが5人とか6人しかいない部があります。そうすると、火事があっても災害があっても出動できない状況になっています。そういうところの見直しですね。あと、団員の確保、今、団員の一般団員の年俸が35,000円です。あと、一回出動について1,400円です。この辺も一昨日新聞に載っていたのですが、総務省の方で1回出動8千円となっていたんです。総務省が各自治体に出しているお金です。1人に出すお金ではないんです。その8千円の中に名前が書いてないんです。何に使うか決まっていらないんです、それは各自治体で決めて、年俸とか出動手当だつて出すんです。こういうのも見直しをしなければならないと強く思っています。減災という点では、防災・減災というのを考えていかななくてはいけないということを考えると、前から市の方に言っていますが、我々一般の人間は市内だけでなく市外に勤めていることもあり、昼間の出動ができないということを考えると、ぜひ那須塩原市の職員が、消防団に入って、市民の安全・安心を守っていけるというのも提案していきたいと思っています。

【会長】

消防団の問題は全国的に問題になっている。

【委員】

全国には70歳を過ぎても、消防団をやっている方がおります。東京に行ったときに、70歳を過ぎた方が何人もいらっしゃいました。

あと、10年前の東日本大震災で、東北で消防団員が250名殉職しているんです。津波にのまれたということですね。これは我々の方の話ですが、殉職したときのお金なんか国・県の方に要望していかななくてはいけないと思っています。

【委員】

コロナによって基本構想の内容が変わるのではないかという話がありましたが、基本構想に基づいて計画を作るといふことであれば、万が一コロナで社会が変わった段階で、基本構想に矛盾するような計画が出てきた場合にどうしたらいいのか、少し考えておいた方がよいのではないかと思います。あと、基本計画を作るにあたって、やはりKPIは出していただけた方がいいかと、どの程度進捗したかは出していただいた方が議論がしやすいのではないかと思います。あと細かい内容の方で、人口を増やしていくのは全国的に難しい問題だと思いますけれども、目標人口以上に減少しているということで、今回これを踏まえるということですが、増えないことを前提として考えて、例えば関係人口や二拠点生活などの視点も踏まえて、住まないかもしれないけれども栃木に来ていただくとか、発信の部分など、若い方が住んでみたいなど、長く定住できるようなP41にある「誰もがいきいきと暮らせる」

ような若い方が住んでみたい、住んでからもここにずっといたいという施策を、計画ができるのがコロナ後ですから、東京にいる意味を感じない人も多くいると思いますので、そういうものを作っていけたらいいなと思います。

【委員】

私からは2つありまして、この第2次那須塩原市総合計画ができたときに、ブランドメッセージが使えてなかったような状況がありまして、「エールなすしおぼら～夢が動き出すまち～」が那須塩原市のブランドメッセージなのですが、なかなか浸透していないんですね。これをつくったときに関わらせていただいたんですが、実はすごく丁寧に作っています。このブランドメッセージは、地域参画総量といって、地域にどれだけ関わる人を増やすか、この地域を語れる言葉がないといけないというメッセージで作っているんですね。一番初めにつくった「チャレンジなすしおぼら」というブランドメッセージのときは、あちこちに移住してきた人に「どうして移住してきたのか」という話をきいたら、事業がダメになって帰ろうとしたんだけど、誰々さんが助けてくれたからここにいるんです、というのを口々に言っていたんです。ここは、開拓のまちだから頑張っている人を応援する土壤があるし、この地域だから頑張れるという土壤があるんだと、ここから「チャレンジなすしおぼら」、その後それを書き直すということがあって、「エールなすしおぼら～夢が動き出すまち～」というブランドメッセージになっていったんです。なので、後期計画に関しては、このブランドメッセージが市民の方々に浸透していったら、空気感として、起業するなら那須塩原市で起業しようよ、だって応援してくれるんだから、という空気感を出していけたらいいんじゃないかと思ってます、というのが1点目。もう1点は、実は私もコロナをポジティブに考えていて、せっかくだから、コロナ前に戻るのではなくて、「那須塩原市2.0」といったようにバージョンアップしていく那須塩原市を目指していく、というところに発想がいくといいのではないかと思っています。だから、これに則っていますけれども、これを飛び越えてもいいんじゃないかなと、私は思っています。

【委員】

福祉に関する項目以外の全ての項目について、特に病気・障害持ちの方が、楽しくこのまちで過ごせるのかな、毎日をよりよく過ごせるのかなという観点でみさせていただきました。そこで気になったのが、交通アクセスの問題だとか、あとは社会参加ができているかどうかですね、就労の場面だとか文化活動にそういった方たちも参加できているのかなというところが気になっておりました。あとは、やはりコロナの影響もあるますけれども、生活困窮者の方々も大変増えていると思いますが、そういった方へのケアも必要かと思えます。先程委員の意見にもありましたように、子育て世代の方の、お母さまたちの意見も取り上げる必要があるのかなと思っています。子育てしやすいまちであれば、若い世代が引越してきて、定着もすると思うんですね。子育てに理解のあるような、子供目線で安全・安心なまちというのが、誰にとっても住みやすいまちになるんじゃないかなと思っています。

【委員】

今、具体的に動けることを考えてみました。いまから動けるのは、那須塩原市の良さを発信できていない、もっと県外の方に知ってもらおうという部分が足りないということでしたので、我々全国に7か所の商業施設を運営しているので、那須塩原市の「エールなすしおぼら」といった広告というか、情報

発信をさせていただくことはできるのではないかと考えています。それを続けることによって、移住の話であったりとか、観光業回復につながっていくのではと思っています。ぜひ、そこは動いていきたいと思っております。

【委員】

コロナの影響で、東京近郊が移住・定住促進を始めています。市も前から実施していますが、那須塩原駅前にサテライトオフィスをつくるということがこのコロナで実現できるような環境になったと思います。これからの人口減少も含めて、今、東京の大企業はテレワークで仕事ができる、そして、1週間に1回の出社でよければ那須塩原駅が使える、まさに絶好の地域ですから、そういうものを具体的に、先程の魅力発信も含めて、移住定住促進の受け皿となる施策を本気で実行していくことで、将来の人口減少にも歯止めがかり、今がそういった環境を整備していくチャンスかなと思います。

【会長】

那須塩原駅周辺まちづくりビジョンでもそのようなことを考えていて、あそこに市役所が令和7年度にできる予定ですが、あのあたりというのは新幹線もとまりますし、なによりも天皇陛下がお見えになる場所ですから、そういうところで、いい場所じゃないかなと思っています。

【委員】

構想の中で、人口ビジョンを見直していくと事務局から説明があったんですけども、人口ビジョンは、国が地方創生を出したときに合計特殊出生率を 2.07 という数字用いて、どこの県もどこの市も、みんな 2.07 なんです。ほんとに 2.07 でいいのかなとずっと思っていて、5年間の推移をみると、2.07 に近づくのではなくて、2.07 から離れていってしまうんですね。那須塩原市とすれば、人口ビジョンを見直すのであれば、本当に 2.07 でいいのかということを見直さないと、それぞれの市とか町の状況で違ってくるし、皆さんがいわれた子育てや女性に優しい施策が入っているかどうかで、また変わってくることもあるかと思っています。そういうことを考えていかないと、せつかく2年間考えても、また 2.07 使っているということであるとなかなかないところがあるので、現実をみながらも理想をどこに追っていくかというのを進めていっていただきたい、私もそこに対して意見をいいたいなと思っております。

【委員】

那須塩原市は非常に魅力的なところであると思っています。魅力の1つは、自然が身近にあり、都会では全く味わえない生活ができるので、その魅力をぜひ持続していただけたらいいなと思っています。先程委員から御発言がありましたが、太陽光発電のパネルがどんどん木を切ってきていくということが本当にいいのかというのは、もうちょっと立ち止まって考えなくてはいいと感じております。

あともう1つ、時代の変化で言うと、DXの影響が大変大きくなってきています。国もデジタル庁をつくって推進していこうとしていますし、自治体の中でも先行しているところがあって、この近くですと会津若松市が東日本大震災以降アクセントという世界的なコンサルタントのバックアップを得て、DXを進めております。そういう先行事例も参考にしながら、行政サービスや産業支援に非常に大きな影響を与えますので、ぜひ後期計画の中では取り組んでいただきたいと思っています。

【会長】

デジタルについては、那須塩原市でも組織ができましたが、デジタル庁ができれば、全国の市町村も競って色々な形をやっていくと思いますので、先進的なところなどを参考にして検討していければと思っております。

【副会長】

皆様の御意見をききまして、様々な立場から御意見をいただきまして、自分としては勉強になりました。私も商工会という立場で、コロナ禍、アフターコロナの中で企業の存続、あるいは商店街の活性化、それと観光業、飲食店含めまして、非常に厳しい立場におかれております。そういうのも含めて、フォローアップしていかなくてはいけないと思っております。また、商店街においても後継者不足、事業承継なども取り組んでいかなくてはいけないと考えております。地域力アップについても、1つ1つこの後期計画に反映されるような努力をしていきたいと思っております。それと同時に、改めて「人がつながり 新しい力が湧きあがるまち 那須塩原」ということを頭に入れながら、皆様とともに後期計画のプラスワンについての事業としてやっていきたいと思っております。

【会長】

今日は第1回目ということで、色々な意見を自由に出していただきました。今後は、様々な資料が出てきて、それに対して意見や議論することになるかと思っております。これで、(2)の議題を終了したいと思っております。

(3)策定スケジュールについて

(資料7について事務局説明)

【会長】

策定スケジュールにつきまして、ご質問意見等ございますか。

【委員】

<意見なし>

(4)その他

<特になし>

7 閉会